平成 21 年度 事業報告・決算報告　関連資料

― 目次 ―

□ 団体　正会員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
□ 団体　一般会員・賛助会員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
□ ＲＡＣ指導者の都道府県及び種別　修了者数・・・・・・・・・・・・・ 4
□ ＲＡＣトレーナー一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
□ 収入内訳の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
□ 第 9 回川に学ぶ体験活動全国大会 in ひろしま報告 ・・・・・・・・・・ 7
□ 第７回 RAC フォーラム記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
□ ＲＡＣ地域ミーティングの記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
□ ＲＡＣ子ども水辺安全講座の記録（栃木）・・・・・・・・・・・・・・・ 15
□ ＲＡＣサマーキャンプの記録・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
□ 全国一斉 1 万・川の流れ体験キャンペーンの記録・・・・・・・・・・ 21
□ Ｅボート指導者講習会　指導者マニュアル ・・・・・・・・・・・・・ 23
□ Ｅボート指導者講習会　各種規定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
□ 全国川遊び 100 選募集要項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

平成 22 年 5 月 22 日（土）

ＮＰＯ法人 川に学ぶ体験活動協議会

担当者住所（都道	団体名	会員区分1（種別）
北海道	NPO法人　自然体験学校	正会員
北海道	NPO法人　帯広NPO２８サポートセンター	正会員
北海道	岩尾内ダム水源地域　ビジョン推進会議ASOVI	正会員
北海道	NPO法人 しりべつリバーネット	正会員
北海道	NPO法人 水環境北海道	正会員
北海道	「バイエルンの風」カヌー学校	正会員
北海道	NPO法人川や海を守り伝統を伝える会	正会員
青森県	小川原湖自然楽校	正会員
青森県	NPO法人岩木山自然学校	正会員
岩手県	北上川フィールドライフクラブ	正会員
宮城県	くりこま高原自然学校（多世代はうす文字倶楽部）	正会員
福島県	阿賀川・川の達人の会	正会員
茨城県	NPO法人小貝川プロジェクト21	正会員
栃木県	栃木カヤックセンター	正会員
群馬県	アドベェンチャー集団Ｄｏ！	正会員
群馬県	フォレスト＆ウォーター	正会員
群馬県	レイクウォーク	正会員
群馬県	NPO法人青少年体験活動研究所	正会員
埼玉県	NPO法人　荒川流域ネットワーク	正会員
千葉県	江戸川・水フェスタinいちかわ実行委員会	正会員
東京都	(社）日本ネイチャーゲーム協会	正会員
東京都	サントリー水育「森と水の学校」事務局	正会員
東京都	NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム	正会員
東京都	NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会	正会員
東京都	千葉県河川環境教育研究会	正会員
東京都	小学館レクリェーションリーダーズクラブ	正会員
東京都	八千代エンジニヤリング株式会社	正会員
東京都	NPO法人地域交流センター	正会員
東京都	社団法人日本河川協会	正会員
東京都	株式会社　東京建設コンサルタント	正会員
東京都	フィールドワークス	正会員
東京都	財団法人　河川環境管理財団	正会員
東京都	財団法人ハーモニィセンター	正会員
東京都	NPO法人地球野外塾	正会員
東京都	NPO法人国際自然大学校	正会員
神奈川県	ama水辺の自然文化研究所	正会員
神奈川県	ふるさと侍従川に親しむ会	正会員
神奈川県	日本セーフティカヌーイング協会	正会員
神奈川県	森環境教育事務所	正会員
神奈川県	NPO法人 鶴見川流域ネットワーキング	正会員
新潟県	関越地域連携協議会	正会員
新潟県	新潟県見附市役所	正会員
福井県	日野川流域交流会	正会員
福井県	GNOM(ノーム）自然環境教育事務所	正会員
福井県	NPO法人自然体験共学センター	正会員
長野県	NPO法人 グリーンウッド自然体験教育センター	正会員
長野県	NPO法人白馬国際自然学校	正会員
岐阜県	NPO法人エヌエスネット	正会員
岐阜県	NPO法人　緑の風	正会員
岐阜県	NPO法人馬瀬川プロデュース	正会員
岐阜県	NPO法人 長良川環境レンジャー協会	正会員
静岡県	しずおか流域ネットワーク	正会員
京都府	NPO法人　芦生自然学校	正会員
京都府	亀岡自然活動研究所	正会員
大阪府	株式会社アオキカヌーワークス	正会員
大阪府	近畿子どもの水辺ネットワーク	正会員
大阪府	一般社団法人　ラフティング協会	正会員
島根県	日原カヌークラブ	正会員
広島県	エコロジー研究会ひろしま	正会員
広島県	福山平成大学	正会員
徳島県	NPO法人新町川を守る会	正会員
福岡県	玄海グリーン＆アドベンチャー共同企業体	正会員
福岡県	川と自然の体験楽校ＷＡＯ！	正会員
福岡県	NPO法人西日本環境ネットワーク	正会員
福岡県	川塾 北九州	正会員

担当者住所（都道	団体名	会員区分1（種別）
福岡県	九州カヌーガイド安全推進協議会	正会員
佐賀県	城原川エンジョイクラブ	正会員
熊本県	九州中央山地自然学校	正会員
熊本県	NPO法人　緑川流域連携会議	正会員
熊本県	ＴＥＲＡ子野アドベンチャー	正会員
熊本県	ＮＰＯ法人白川流域リバーネットワーク	正会員
宮崎県	NPO法人大淀川流域ネットワーク	正会員
宮崎県	NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク	正会員
鹿児島県	NPO法人川内川生きものクラブ	正会員
鹿児島県	川内川流域連携ネットワーク	正会員

団体　一般会員名簿　（都道府県順）　2010/05/17

担当者住所(都道	団体名	会員区分1(種別)
北海道	遠軽町河川愛護少年団(川の学校)	一般会員
北海道	(有)リトルトリー	一般会員
北海道	山のない北村の輝き	一般会員
北海道	NPO法人カラカネイトトンボを守る会	一般会員
北海道	鵡川・沙流川交流会	一般会員
岩手県	特定非営利活動法人北上川流域連携交流会	一般会員
宮城県	NPO法人水環境ネット東北	一般会員
秋田県	湯沢地区子どもの水辺協議会	一般会員
福島県	逢瀬川ふれあい通り実行委員会	一般会員
茨城県	ストームフィールドガイド	一般会員
茨城県	RACファンクラブ	一般会員
茨城県	おてんばくらぶ茨城	一般会員
栃木県	ネイチャープラネット	一般会員
群馬県	(有)カッパクラブ	一般会員
埼玉県	新河岸川水系水環境連絡会	一般会員
埼玉県	kanute	一般会員
東京都	イワタニ・プリムス株式会社	一般会員
東京都	東豊田緑湧会	一般会員
東京都	パイロットハウス　大賀商事㈱	一般会員
東京都	野外教育事業所 ワンパク大学	一般会員
東京都	～えどがわ自遊楽校～みずとみどりの寺子屋	一般会員
東京都	NPO法人 空堀川に清流を取り戻す会	一般会員
東京都	NPO法人地球環境カレッジ	一般会員
神奈川県	NPO法人海辺つくり研究会	一般会員
神奈川県	日本レクリエーションカヌー連盟	一般会員
福井県	ひまわり探偵団	一般会員
福井県	環境文化研究所	一般会員
福井県	田倉川と暮らしの会	一般会員
山梨県	多摩川源流研究所	一般会員
岐阜県	NPO法人メタセコイアの森の仲間たち	一般会員
愛知県	矢作川「川会議」	一般会員
愛知県	名古屋かわを考える会	一般会員
京都府	NPO法人　流域調整室	一般会員
大阪府	ふるさと都・夢づくり協議会	一般会員
大阪府	NPO法人　アカルプロジェクト	一般会員
岡山県	旭川流域ネットワーク	一般会員
広島県	トムソーヤ倶楽部	一般会員
広島県	芦田川　美麗塾	一般会員
愛媛県	東予環境グループ	一般会員
福岡県	大牟田はやめにこにこ会	一般会員
宮崎県	NPO法人五ヶ瀬自然学校	一般会員
鹿児島県	川内川アクアフロント推進協議会	一般会員
鹿児島県	国定観光公園　マングローブ茶屋	一般会員
沖縄県	なきじん海辺の自然学校	一般会員

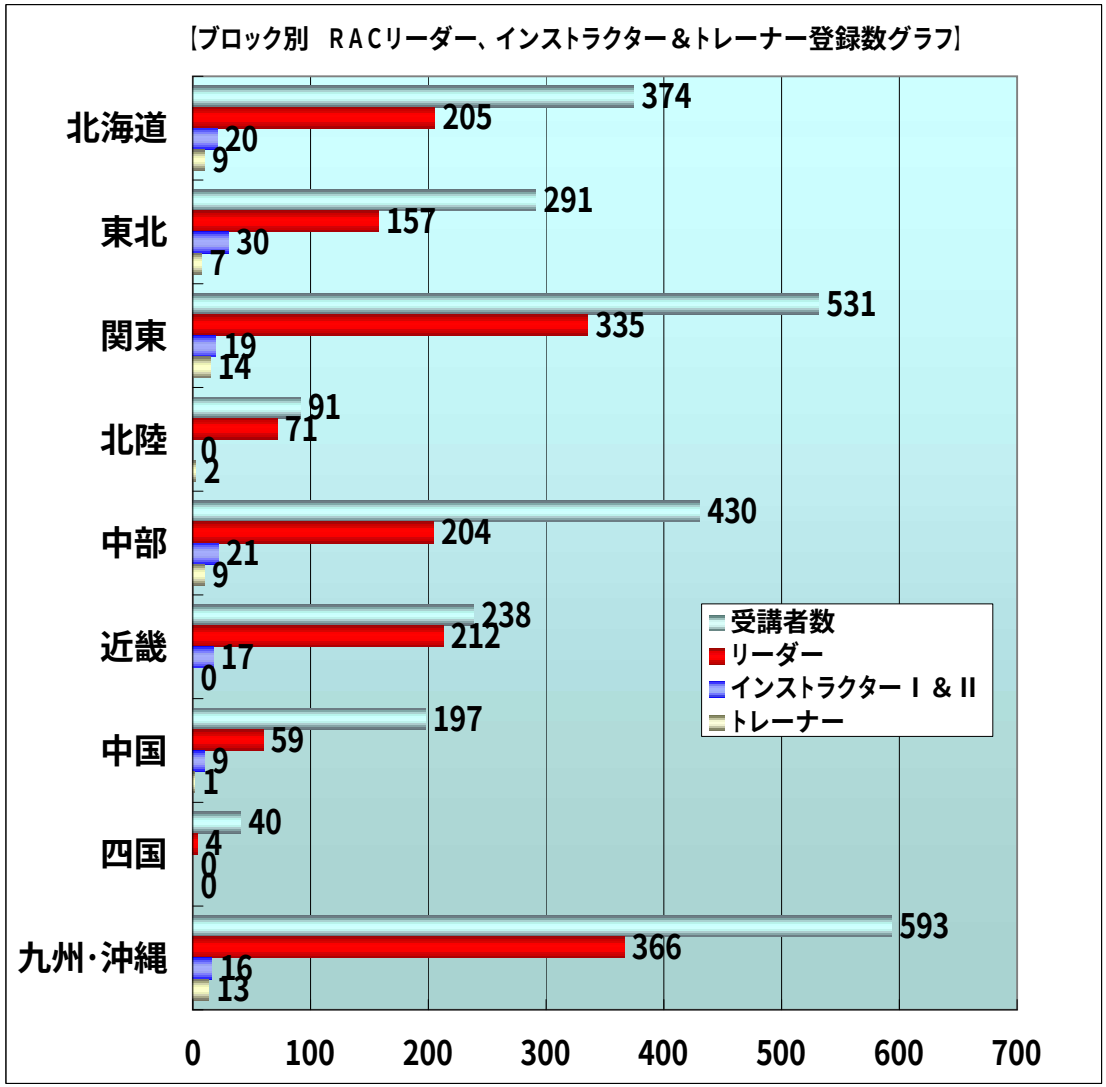
団体　協賛会員名簿(都道府県)　2010/05/17

担当者住所(都道	団体名	会員区分1(種別)
東京都	株式会社　ミナミ	賛助会員

RAC指導者　地域(地整）別登録数

リーダー				インストラクターⅠ＆Ⅱ				トレーナー			
ブロック別	登録数	県別	登録数	ブロック別	登録数	県別	登録数	ブロック別	登録数	県別	登録数
北　海　道	205	北　海　道	205	北　海　道	20	北　海　道	20	北　海　道	9	北　海　道	9
東北	157	青　　森	20	東北	30	青　　森	0	東北	7	青　　森	2
		岩　　手	3			岩　　手	0			岩　　手	1
		宮　　城	12			宮　　城	0			宮　　城	1
		秋　　田	12			秋　　田	0			秋　　田	0
		山　　形	6			山　　形	0			山　　形	0
		福　　島	104			福　　島	30			福　　島	3
関東	335	茨　　城	86	関東	19	茨　　城	3	関東	14	茨　　城	1
		栃　　木	23			栃　　木	0			栃　　木	1
		群　　馬	6			群　　馬	0			群　　馬	0
		埼　　玉	40			埼　　玉	4			埼　　玉	0
		千　　葉	38			千　　葉	1			千　　葉	1
		東　　京	90			東　　京	10			東　　京	4
		神 奈 川	49			神 奈 川	0			神 奈 川	3
		山　　梨	3			山　　梨	1			山　　梨	4
北陸	71	新　　潟	33	北陸	0	新　　潟	0	北陸	2	新　　潟	0
		富　　山	1			富　　山	0			富　　山	0
		石　　川	6			石　　川	0			石　　川	0
		長　　野	31			長　　野	0			長　　野	2
中部	204	岐　　阜	60	中部	21	岐　　阜	9	中部	9	岐　　阜	8
		静　　岡	52			静　　岡	12			静　　岡	1
		愛　　知	63			愛　　知	0			愛　　知	0
		三　　重	29			三　　重	0			三　　重	0
近畿	212	福　　井	83	近畿	17	福　　井	0	近畿	0	福　　井	0
		滋　　賀	3			滋　　賀	0			滋　　賀	0
		京　　都	27			京　　都	2			京　　都	0
		大　　阪	75			大　　阪	12			大　　阪	0
		兵　　庫	20			兵　　庫	2			兵　　庫	0
		奈　　良	4			奈　　良	1			奈　　良	0
		和 歌 山	0			和 歌 山	0			和 歌 山	0
中国	59	鳥　　取	7	中国	9	鳥　　取	0	中国	1	鳥　　取	0
		島　　根	8			島　　根	3			島　　根	0
		岡　　山	5			岡　　山	0			岡　　山	0
		広　　島	37			広　　島	6			広　　島	1
		山　　口	2			山　　口	0			山　　口	0
四国	4	徳　　島	3	四国	0	徳　　島	0	四国	0	徳　　島	0
		香　　川	0			香　　川	0			香　　川	0
		愛　　媛	1			愛　　媛	0			愛　　媛	0
		高　　知	0			高　　知	0			高　　知	0
九州・沖縄	366	福　　岡	122	九州・沖縄	16	福　　岡	0	九州・沖縄	13	福　　岡	4
		佐　　賀	16			佐　　賀	0			佐　　賀	0
		長　　崎	1			長　　崎	0			長　　崎	0
		熊　　本	53			熊　　本	3			熊　　本	3
		大　　分	13			大　　分	0			大　　分	0
		宮　　崎	115			宮　　崎	13			宮　　崎	4
		鹿 児 島	39			鹿 児 島	0			鹿 児 島	2
		沖　　縄	7			沖　　縄	0			沖　　縄	0
不明・未提出	0	不明・未提出									
計	1613	計	1613	計	132	計	132	計	55	計	55

注)現時点で登録されている者の数。未更新の者がいるため受講者数とは異なる。



2010/5/17

RACトレーナー一覧

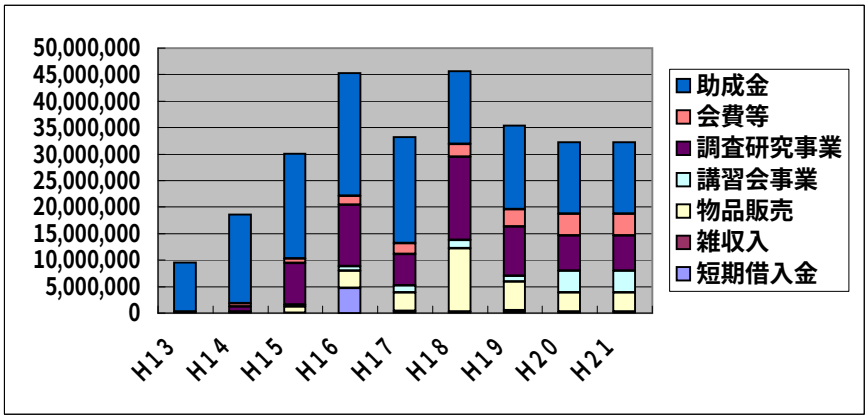
2010/5/17

NO	都道府県	氏名	指導者種別	推薦団体	有効期限（トレーナー）
1	北海道	井本　五十鈴	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	(財)河川環境管理財団	2011/3
2	北海道	稲葉　行則	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	(財)河川環境管理財団	2011/3
3	北海道	若林　伸一	RACトレーナー	NPO法人自然体験学校	2009/3
4	北海道	千葉　養子	RACトレーナー	川に学ぶ体験活動東北海道協議会	2013/3
5	北海道	大内　雅司	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	岩尾内ダム水源地域ビジョン　ASOVI	2010/3
6	北海道	谷　拓也	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	(財)河川環境管理財団	2011/3
7	北海道	中村　美緒	RACトレーナー	NPO法人自然体験学校	2007/3
8	北海道	南　重光	RACトレーナー	NPO法人しりべつリバーネット	2010/3
9	北海道	乳井　亜矢子	RACトレーナー	NPO法人自然体験学校	2009/3
10	青森県	高田　敏幸	RACトレーナー	NPO法人岩木山自然学校	2015/3
11	青森県	相馬　孝	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	小川原湖自然楽校	2012/3
12	岩手県	豊留　雄二	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	くりこま高原自然学校	2012/3
13	宮城県	馬渡　達也	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	くりこま高原自然学校	2009/3
14	福島県	高橋　利雄	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	阿賀川・川の達人の会	2011/3
15	福島県	坂下　諭	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	阿賀川・川の達人の会	2011/3
16	福島県	馬場　和廣	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	阿賀川・川の達人の会	2011/3
17	茨城県	斉藤　隆	RACトレーナー　CONEトレーナー2種	NPO法人小貝川プロジェクト21	2011/3
18	栃木県	高橋　克佳	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	栃木カヤックセンター	2012/3
19	千葉県	吉野　英夫	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	(財)河川環境管理財団	2013/3
20	東京都	青木　貴紳	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	NPO法人小貝川プロジェクト21	2011/3
21	東京都	倉持　武彦	RACトレーナー	森環境教育事務所	2011/3
22	東京都	中原　優人	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	NPO法人鶴見川流域ネットワーキング	2011/3
23	神奈川県	森　美文	RACトレーナー	森環境教育事務所	2010/3
24	神奈川県	長谷川　孝一	RACトレーナー	ama水辺の自然文化研究所	2010/3
25	神奈川県	板倉　浩幸	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	森環境教育事務所	2012/3
26	神奈川県	平山　康弘	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	NPO法人鶴見川流域ネットワーキング	2011/3
27	福井県	坂本　均	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	日野川流域交流会	2013/3
28	福井県	田中　謙次	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	日野川流域交流会	2013/3
29	福井県	田中　保士	RACトレーナー	日野川流域交流会	2013/3
30	長野県	辻　英之	RACトレーナー	NPO法人アウトドア・自然体験教育センター	2013/3
31	長野県	和田　信治	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	NPO法人白馬国際自然学校	2011/3
32	岐阜県	高屋　良平	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	NPO法人エヌエスネット	2012/3
33	岐阜県	柴田　甫彦	RACトレーナー	NPO法人長良川環境レンジャー協会	2009/3
34	岐阜県	浅野　純一	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	NPO法人エヌエスネット	2012/3
35	岐阜県	村瀬　典康	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	NPO法人長良川環境レンジャー協会	2012/3
36	岐阜県	藤村　隆彦	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	NPO法人長良川環境レンジャー協会	2012/3
37	岐阜県	北川　健司	RACトレーナー	NPO法人エヌエスネット	2012/3
38	岐阜県	北川　清	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	NPO法人長良川環境レンジャー協会	2012/3
39	岐阜県	名和　あけみ	RACトレーナー	NPO法人長良川環境レンジャー協会	2013/3
40	静岡県	原　隆一	RACトレーナー	しずおか流域ネットワーク	2010/3
41	広島県	山下　雅彦	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	福山平成大学	2011/3
42	広島県	小谷　寛二	RACトレーナー　CONEトレーナー1種		2007/3
43	福岡県	西胤　正弘	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	川塾「北九州」	2011/3
44	福岡県	村崎　詩園	RACトレーナー	NPO法人西日本環境ネットワーク	2010/3
45	福岡県	中山　尚	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	栃木カヤックセンター	2013/3
46	福岡県	内村　政彦	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	川塾「北九州」	2011/3
47	熊本県	原田　秀夫	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	TERA子野アドベンチャー	2011/3
48	熊本県	田中　清也	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	(財)河川環境管理財団	2014/3
49	熊本県	榮　そのみ	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	白川流域リバーネットワーク	2014/3
50	宮崎県	小野　厚夫	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク	2010/3
51	宮崎県	杉尾　哲	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	NPO法人大淀川流域ネットワーク	2012/3
52	宮崎県	土井　裕子	RACトレーナー　CONEトレーナー2種	NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク	2010/3
53	宮崎県	矢野　純一	RACトレーナー　CONEトレーナー2種	NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク	2013/3
54	鹿児島県	春園　四郎	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	川内川流域ネットワーク	2011/3
55	鹿児島県	上野　豊	RACトレーナー　CONEトレーナー1種	NPO法人川内川生きものクラブ	2012/3

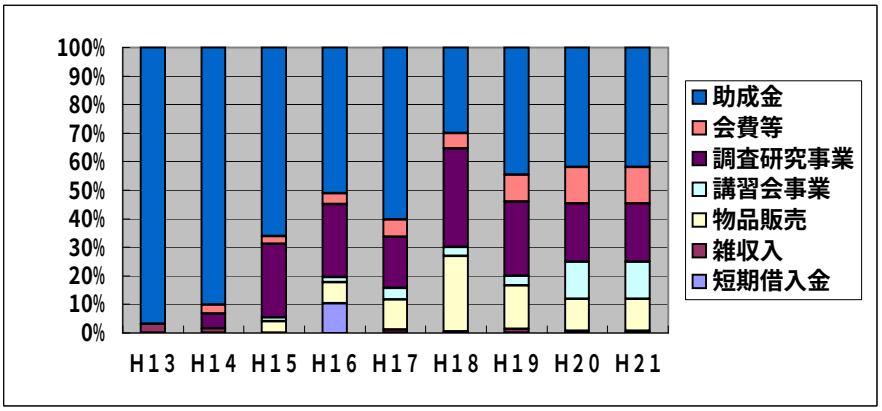
※CONEトレーナー種別はRAC所属のトレーナーの場合のみ記載

ＲＡＣ　収入内訳の推移

	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
短期借入金				4,690,000					
雑収入	291,000	290,000	16	23	408,167	235,696	510,349	210,540	210,540
物品販売		0	1,225,200	3,299,080	3,442,720	12,017,001	5,354,880	3,608,282	3,608,282
講習会事業			382,000	831,000	1,401,237	1,468,936	1,157,990	4,202,250	4,202,250
調査研究事業	0	950,000	7,773,837	11,544,965	5,902,811	15,724,342	9,234,383	6,566,500	6,566,500
会費等	0	610,000	825,000	1,701,500	2,008,000	2,473,000	3,336,500	4,091,800	4,091,800
助成金	9,292,000	16,782,530	19,885,717	23,164,000	20,092,559	13,715,534	15,786,000	13,516,501	13,516,501
収入計	**9,583,000**	**18,632,530**	**30,091,770**	**45,230,568**	**33,255,494**	**45,634,509**	**35,380,102**	**32,195,873**	**32,195,873**



	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
短期借入金	0	0		10					
雑収入	3	2	0		1	1	1	1	1
物品販売	0	0	4	7	10	26	15	11	11
講習会事業	0	0	1	2	4	3	3	13	13
調査研究事業	0	5	26	26	18	34	26	20	20
会費等	0	3	3	4	6	5	9	13	13
助成金	97	90	66	51	60	30	45	42	42
収入計	100	100	100	100	100	100	100	100	100



ニュースと話題

第９回川に学ぶ体験活動全国大会in広島 大会報告

The 9th National convention of ideas by River Activities Council in Hiroshima

ひら やま やす ひろ
平山康弘*
Yasuhiro Hirayama

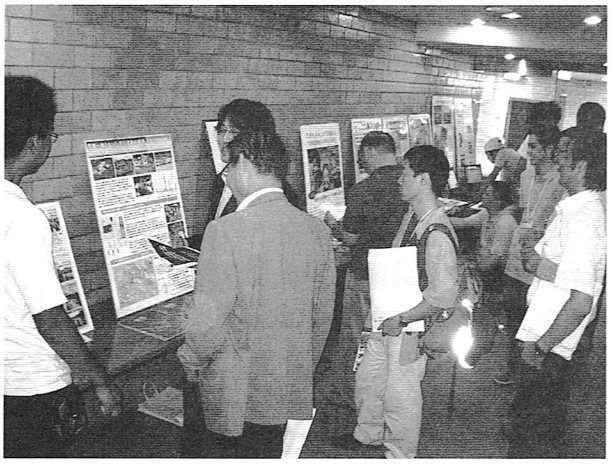
概　要

第９回を迎えた川に学ぶ体験活動全国大会、今年は、広島県広島市で開催をいたしました。この大会は、全国で立候補した地域が持ち回りで行うことになっていますが、開催地で活動するNPO法人川に学ぶ体験活動協議会（以下RAC）の会員団体が中心となり実行委員会を組織して運営します。今年の広島大会の開催は、当協議会の理事であるエコロジー研究会ひろしま事務局長の瀬川さんが、広島で川での体験活動とその様子を広く伝えた、普及させたいということで、早々と一昨年の総会で今年度の開催を申請し、昨年の開催地（昨年は熊本県熊本市で開催）が決まる前から実行委員会を組織するなど準備を始めていました。

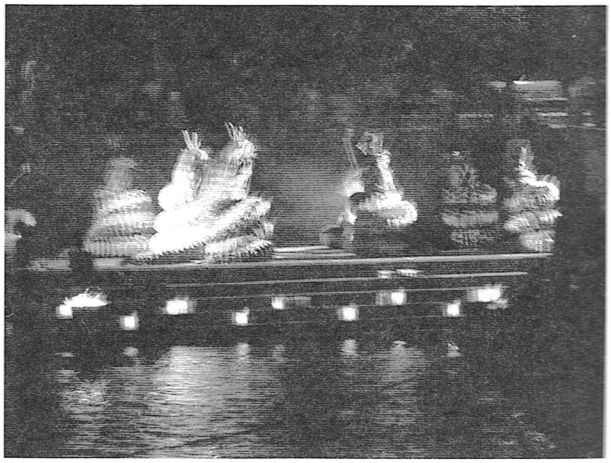
さて、このように準備がすすめられた　全国大会、９月５日（土）～９月６日（日）に中国新聞社の社屋のホールで開催をしました。

開会式では、瀬川実行委員長の開会宣言、藤吉RAC代表理事の「RACと聞いてすぐに分かる人はまだまだ少ないが、リーダー１万人を目指して頑張っていきます。」との挨拶で開会し、国土交通省河川局の安田流域治水室長を始め、広島県大野土木局長、広島市片平活性化局長のご祝辞をいただきました。そして、この大会やRACについてのガイダンスののち、二日間のプログラムへと展開していきました。

それでは、ここからは、二日間で行われた全国大会のプログラムとその様子を、発表や講演、また参加者間で議論された内容を交えながらご紹介していきたいと思います。



ポスターセッション



水辺の交流会（神楽）

＊NPO法人川に学ぶ体験活動協議会常任理事・総務部会長
Chief of Administrative Sectional Meeting, Executive Director, River Activities Council

今年の全国大会は、室内でのプログラムが大変に充実していました。初日の基調講演に始まり、地元広島の小学校、中学校、高校の活動の発表、全国から集まった川の仲間たちからの活動報告とポスターセッション、二日目に入ると、朝の分科会に続き全体会、未来へのメッセージとしての川での体験活動を取り入れた環境教育の実践をご紹介いただくなど、時間の配分に困ったほどの盛りだくさんの内容です。また、屋外のプログラムとしては、初日の夜に、水辺の交流会に続き船上コンサートなどの「水辺夜のイベント」が開催され、２日目の午後は、「世界遺産めぐり」と「ひろしま川祭り」のエクスカーションが行われました。広島遺産めぐりでは、チャーターした船で原爆ドーム前を出発し、宮島をめぐりました。船内では雅楽の生演奏もあり、おかげさまで広島の川の体験もしっかりと味わうことができました。

《基調講演》

さて、その充実のプログラムの最初が、ここへ足を運ばれる方ならだれもが知っているアウトドアー用品メーカー、株式会社モンベルの会長　辰野勇氏の「野遊びのすすめ」と題した基調講演でした。

「社名である《モンベル》とは、フランス語で美しい山という意味です。」と始まり、山にあこがれたが体が弱かったため、山に行けずに悔しい思いをした子どもの時代、高校生になってから、山の仕事をしよう、アイガー北壁に登ろうと決意し、まずは貯金から始めて26歳で登頂を実現したこと。そして、その後の命の危険と直面しながら行ってきた登山、このままでは死んでしまうと始めた川の活動などをお話しいただきました。しかし、結局グランドキャニオンなど世界の川を下るような危険なものになり、国内でも黒部川の源流から河口までの川下りに挑んだことなど数々の冒険、また、障害を持つ方々にカヌーの指導したときの感動したことなどをお聞きしました。

その中で「好奇心をもって危険なことをやる。怖がりだから用意周到になる。」「野遊びは、リスクマネジメント・好奇心・生きる力を教えてくれた。」そして、生きていく上で最も重要な力は、「集中力」「持続力」「判断力」そして、「決断力」であるとお話しされました。

このような生きる力をつける方法は無限にあるが、僕（辰野氏）は、山登りで「集中力」「持続力」「判断力」を、そしてカヌーで「決断力」を身につけましたと語られました。

川に学ぶ体験活動はこのような「野遊びの一つだ。みなさん、しっかりと広げていきましょう」とのメッセージをいただいたような気がしています。

《川に学ぶ学校発表会》

さて、力強いお話の後に、「川に学ぶ学校発表」が行われました。今回の開催地広島で活動してきた小学生、中学生、高校生からの発表です。まず

基調講演（辰野勇さん）

事例発表（海田東小学校）

は、広島県海田町立海田東小学校の生き物フレンズのみなさんが、生きものや水質の調査に加え川流れの体験などを報告してくれました。続いて、広島市立高陽中学校の皆さんから奥迫川でのホタルの生息調査について、ホタルのいるところいないところ、カワニナの数などとともにその場所の水質などの環境調査の様子の報告をしていただきました。広島県立国泰寺高校からはオオサンショウウオの研究の発表でした。この研究、高校生のレベルをはるかに超えていると思わせる充実した内容で、2008年の日本ストックホルム水大賞を受賞しているそうです。

《全国川に学ぶ体験活動発表》

今年の発表は、全国の活動を題材に「遊び」「生活」「環境」「防災」「賑わい」の５つのテーマで「川に学ぶ体験活動」を整理してみることを試みました。北は北海道士別、南は九州鹿児島から、そして、ご当地広島からの３団体を含めて合計10の活動を発表していただきました。

以下、発表していただいた団体とその趣旨を列記します。

●太田川いかだ下りカワニバル；
審査は楽しく！　いかだ下りを続けて22年、全国大会も開催している官と民をつなぐ活動

●可部カラスの会；
まちの宝である川を軸として様々なイベントや調査などを行いながら地域文化を創出している

●五日市氏観音小学校；
ヤマトシジミの稚貝を植え付け、河川の水質浄化に取り組んでいる小学生の活動

●白川TERA子野アドベンチャー；
川での体験活動をとにかく楽しく遊びながら、英会話も取り入れて行った活動

●日野川流域交流会；
漁協や商工会など地域の多くの団体と連携し、砂礫がわらを取り戻す取り組み

●九州中央山地自然学校；
企業とも連携しながらリーダー講座安全講座を展開している取り組み

●鶴見川流域ネットワーキング；
汚い川との汚名を受ける鶴見川で川と親しみ川を見直すような様々な体験活動

●新町川を守る会；
出来る人が出来ることをやるをコンセプトに、船で新町川を清掃しているまちづくり活動

●川内川流域連携ネットワーク；
河川管理者と連携して集中豪雨時などの水難事故防止の取り組み

●岩男内ダム水源地ビジョン推進会議ASOVI；
より確実なリスク回避が必要であると考えカヌーイベントの際の安全基準を作成した

全国から来た方々の活動を広めるための核となっている事例、地域の多くの団体の連携で推進している活動の様子に加え、活動の趣旨や各河川やダム、地域の状況に応じた数々の工夫も大変参考にもなりましたし、元気が出ました。今回お聞きしていて感じたことは、やはり継続は力なりだなということです。

《第２日目》
《分科会と全体》

参加者一人一人が、それぞれの活動の様子やその活動への思いを発表し、参加者どおしで意見交換できるようにと毎回分科会を開催しています。今回は、「遊び」「生活」「環境」「防災」「賑わい」の５つのテーマに分かれて行いましたが、今年は各分科会のテーマに関係する活動を実践している地元の方々から話題提供をしていただく形で進めました。

各分科会では様々な意見が出され、活発な意見交換が行われましたが、大変に盛り上がってきたところで全体会に移行せざるをえないところがこの全国大会の悲しいところです。

各分科会の議論の内容をまとめると以下の通りです。

●遊び；《クラブ》について議論した。川での遊びについてエリアとプログラムについてはこれまで議論がされてきたがクラブについては議論されてこなかった。クラブが出来ると組織文化を持つようになり、理念の共有や連帯感が生まれる。

●生活；川そのものや川にあるもので生活を豊かにできる。川の石を家庭での箸置きに、河原を食卓にするような生活は楽しい。川が汚れたりして変化し川から生活が離れた。川と生活をつなげるためには、川についての新しい言葉や文化をつくりだすことも必要。
●環境；生きものを軸にして川を見つめなおす必要がある。貴重種を目玉とすることも大切だが、日常いるものも大切だし、見えないものを見つけることや外来種を知ることも大切である。
●防災；RACでは事故防止、安全対策の配慮などを重視してきたが、地球温暖化、局地的集中豪雨等の激増など、危機管理は、新たな段階に入ったと言える。川で活動しているものにどのような防災が出来るか。自分の身は自分で守るということが重要だ。市民からの情報発信なども必要だ。
●賑わい；やみくもに新しい取り組みを始めるのではなく今の活動を充実させること、活動を地道に継続していくことが大切である。また、地域に情報提供をしていかなければならない。企業も民間もみんなが応援したいとならないと賑わいはできない。また、主催者が楽しむことが基本。上下流交流も大切。

全体会では、この各分科会で出された意見や思いを参加者全員で共有するため、それぞれの分科会のコーディネーターが順番にまとめの報告を行いました。

分科会報告

最後に全体会のコーディネーターを務めていただいた、福山平成大学の小谷教授から「プログラムを持っていて、クラブハウスを持つ《川クラブ》をつくろう」という提案をいただきました。分科会の議論やコーディネーターからの提案をお聞きし、継続的な活動拠点とみんなが安心して体験できるプログラム、そして集まる人が一体となって活動できる「場」が必要であり、期待されているということを改めて強く感じました。

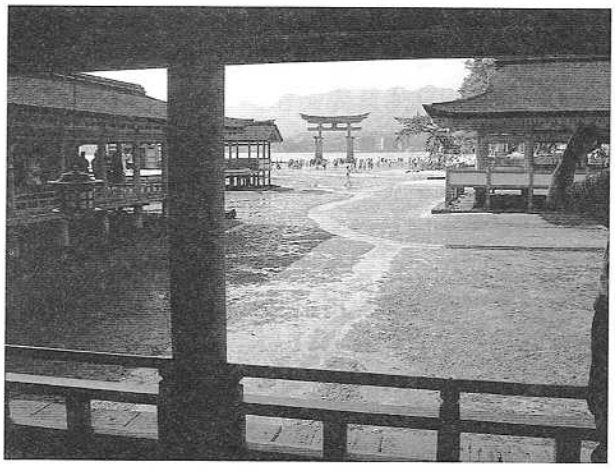
《未来へのメッセージ》

最後に、海田町立海田東小学校の金沢校長から、「川に学ぶ持続発展型教育」についてのお話をしていただきました。

学校で始めた川での学習。

子どもたちが、川での体験を繰り返すうちに、

基調報告（金沢緑さん）



エクスカーション（世界遺産航路）

自分主体であった子どもたちが、様々なことに気づき、生きものに愛着を覚え、仲間へ配慮をしていくようになっていくなど、子どもたちの学習の様子をパワーポイントを使いながらご紹介いただきました。Eボートで水のエネルギーを実感する。川流れで水の冷たさ、流れの強さなどを体感するなどとてもよい体験だったそうです。

このように、川での体験活動を学校での教育の実践活動としてお話をいただいたことは、普段何気なく、本能で行っている子どもとの活動を比較し振り返ることができ、大変有意義でした。このお話をぜひとも多くの学校の先生方に聞いていただきたいものだとつくづく思った次第です。

本当に盛り沢山だった広島大会、準備・運営にあたられた、実行委員会、事務局の皆様お疲れ様でした。また、ご協力いただきました国土交通省河川局の皆さま、地元広島県・広島市、会場をご提供いただきました中国新聞社の皆さまはじめお世話になりました多くの方々へ、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

最後になりましたが、この大会は、河川整備基金の助成金で運営をさせていただいております。この大会を河川整備基金の助成対象事業として応援くださいました（財）河川環境管理財団の皆様にこの場をお借りしあらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、来年は、鹿児島県薩摩川内市において開催します。どのような出会いがあるか、どのような体験が出来るか、今から大変楽しみにしております。ぜひ、RACの会員でない方々も一度ご参加ください。必ずや自分の地域の川の魅力の再発見につながります。

では、また来年、川内川でお会いしましょう。

■　川でのリスクマネジメントに関する全国フォーラム（ＲＡＣフォーラム）■
ＬＡＫＥ　ＣＡＮＯＥのリスクマネジメント　報告

平成 21 年度のＲＡＣフォーラムは湖沼の体験活動の安全について検証するほかダム湖などの活用についてなど、ダム管理をしている方からのダム活用の現状や、実際にダム湖等を利用して体験活動を行っている団体からのお話をお聞きしました。

藤芳副代表理事から今の時代「生きる力」を見直す必要があるのではないか、また今回のフォーラムでは実践的な課題を通して「川に学ぶ」ということを考え、全国で「かわいく」「川育」を実践していきたいと思う、という挨拶がありました。

１．ダムの管理・活用　　話題提供：北牧正之(国土交通省)

ダムの管理・活用について国土交通省河川局河川環境課から北牧氏をお招きして実際のダム湖やダム管理やダムの種類等、パワーポイントなどを使っての詳しいお話を伺いました。その後、参加者から質疑応答を行い実際にダム湖を利用している方からの切実な質問もありました。ダム湖の利用状況については地方や県によって違うところがありますが、実質的には積極的に利用をしてもらい、水源地域ビジョンを作りや地域活性、地元の核としてのダム作りをしたいと考えており、またダム湖の利活用促進も進めているとのことです。

２.レイクカヌーについて　　話題提供:高橋　秀典(レイクウォーク)

群馬県の水上町の利根川源流域の 5 つのダム湖（奥利根湖、奈良俣湖、洞元湖、藤原湖、赤谷湖）でレイクカヌーやカヤックの体験活動を行っている高橋氏からのお話をお聞きしました。ダム湖によっていろいろと規制が違っていることやレイクカヌーを体験した方々から癒されてのんびりできたと言う声などもあったりして、ガイドの目指す目標は非日常空間の体感提供や人間の絆を深める時間空間を提供している、安全についてもスキルや情報の共有や地元との連権なども行っているなどの話がありました。

３．分科会

■湖沼でのリスクマネジメント（分科会１）　　コーディネーター：大内　雅司

第１分科会では、北海道の士別市で体験活動を行っているＡＳＯＶＩの大内氏をコーディネーターに、小川原湖の相馬氏と小貝川の佐藤氏から話題提供をいだきました。はじめに相馬氏から小川原湖の紹介があり、川と湖沼のリスクマネジメントの違いや誰にでもできるレスキュー方法などのお話があり、また、地域的には寒い場所なので低体温症に対しての知識なども必要であると言うことでした。川での活動時でも同じことですがしっかりと計画を立てる、チェックをする、活動後には振り返りをするなどスタッフの情報の共有と研修、日々のトレーニングなど必要だというお話でした。また、保険（賠償責任保険ほか）に入ることも必須であるということです。

次に小貝川の佐藤氏から風についてのリスクマネジメントの報告を聞きました。風速については風が弱くてもいきなり突風を吹くので注意をして欲しいということでした。また、河口部では潮の流れなども伴ってなかなか岸に帰れないと言う事例もあったようです。また、川にないものが湖にあったりするので指導者の頭の切り替えも大事だと言うことです。

■ダム湖の活用と注意事項（分科会２）　　コーディネーター：北川　健司

ダム湖ではダム管理者に声掛けをおこなってから使用するとスムーズな活動ができるようです。しかし、発電のダムは電力会社が所有権を握っているのでダムを使用することは難しいようです。また、ダム湖では風が発生しやすくインフレータブルのボートのついては特に風の影響が出やすいので注意が必要です。国土交通省では原則として湖水面利用も含めて河川の利用については促進をしています。しかし、ダム湖などでは放水口や取水口などがあるために看板などを確認して使用して欲しいと言うことです。ダム湖などで利用制限をしているのには何か事情があるのだと思って下さいと言うことです。

■　Ｅボート等を使ったプログラム作り（分科会３）　　コーディネーター：上野　豊

北海道の千葉氏、岐阜県の名和氏、鹿児島県の上野氏から地域の活動でのＥボートの活用報告をしていた

だきました。

北海道では子どもたちと一緒にボートの組み立てを行っています。帯広市商工会青年部ではＪＩＣＡの交流会などで活用もしました。また、障害者などとＥボート体験や川カフェなどの活動も行っています。（Ｅボートで上陸してコーヒーを飲む）
　岐阜県の長良川の名和氏はボートを使っての川下り（途中の鳥のコロニー観察など）などを行っています。川下りは子どもたちには一番人気のプログラムです。もちろん長良川でもボートの組み立てから行っています。また、長良川では現状の木のパドルだと重いので改良中です。「木曽三川における子どもの水辺安全環境と水難事故マップつくり」などのマップ作りも行っています。平成 22 年は新たな取り組みとして川下りとゴミの回収を行う予定だそうです。
鹿児島県の川内川からはＥボートは大人数で乗るので楽しい、流水の場所も慣れれば子どもたちだけでも乗ることができます。水害があったときに取り残された人を救助したりと、防災面でも役立っています。消防員だけでなく、私たちのような活動をしているメンバーも災害時に助け合うことができるとのことです。

４．　全体会（分科会の集約）　コーディネーター：北川　健司

湖沼で体験活動時にＲＡＣの安全の関するマニュアルが必要であるのではないか？基本的に河川は自由使用であるが、ただ、ダムには特殊性があるので注意することが必要です。教育委員会方面からのアプローチなど色々な側面から働きかけてみることも有効だと言う事です。また、風にも注意することが大切です。使うほうの勝手ばかりではなく、事情を分かって利用する事が重要です。（今回のフォーラムで湖面・ダム湖の利用に関する課題も見えてきたと思いますので RAC で出来る部分もあるように感じます。）

５．　Ｅボート指導者講習会（座学）　講師：青木　貴紳・斉藤　隆

　はじめにＥボート指導者講習会の仕組みについての紹介を行い、自己紹介やキャンプネームなど和気藹々と講座が進みました。その後、信濃川中流域のＥボート風景のＤＶＤで鑑賞しました。
　また、Ｅボートの種類、最近の活用例などの講義があり、Ｅボートの組み立てについては実際のＥボートを使って講義を行いました。屋内でのＥボートの組み立て、パドル操作の仕方、乗り込み方など参加者一同、とても楽しげに受講していました。また、セーフティトークについての講義もあり、ライフジャケットの説明や落水についてやスローバックなど使用説明などがありました。

６．　「Ｅボート指導者講習会」（実習）　講師：青木　貴紳・斉藤　隆

　神栖側の川岸へ移動をして実習を行ないました。チームを 3 グループに分けて Ｅボートの準備や参加者への声かけ演習などを行ました。
ライフジャケットの装着方法やセーフティトークを 2 人組で説明し合い、「ライフジャケットは水辺で活動する際の身を守るためのツールなので、しっかりと装着すること。」などパドルの持ち方の説明なども行いました。その後、１人５分程度で実際に漕いでみてラダーマン体験をしました。

※水や風の音や周囲の人たちの声など、いろいろな音が邪魔をするので、しっかりと声を張ること。全員に指示が行き届かないと、動きがバラバラになってしまいボートが思うように進まない。

※パドルで漕ぐタイミングがバラバラになってしまうようであれば、前の人に合わせて漕ぐ。
※参加者を楽しませるために、レースをしたり、「耳を澄まし」で周りの環境に気づくような働きかけをしたり、水中・水上の生き物の観察をしてみたりしても有効である。

閘門を通過して利根川から黒部川へ移動、その後フリップリカバリーの体験（希望者のみ）を行いました。
ボートの空気を抜いてから布で拭くなど後片付けを行い修了書の授与と感想を聞きました。
・水門を通る、ラダーマンをやるなどの貴重な体験ができた。
・ボートも楽しかったが、鳥の声が聞こえたり、カモが近くを泳いだりという感動もあった。
・今回は大人相手だったが、子ども相手だともっと大変だろう。声かけなど工夫したい。
・一番大変な準備の段階を、いかに楽しいと思わせるかで Ｅボートへの印象も変わる。

■ 平成 21 年度　ＲＡＣ地域ミーティング報告　■

【目的・趣旨】

水辺の体験活動に興味のある人たちが集い、自らの安全対策を再チェックする機会とするとともに、ＲＡＣの最新の取り組みを把握し、かつ、実施ノウハウ等の情報交換も行い、保護者が川で体験活動を安心して子どもたちに参加させることのできる機会を増やすことへと繋げる目的とし、近畿地方（大阪府）九州地方（熊本県）の 2 箇所でミーティングを行った。

【統一プログラム】

時間	内容
9:10	受付
9:30	ガイダンス ＲＡＣの最近の取り組みの紹介 最近の水難事故について 近畿：青木　勇 九州：中山　尚
10:30	ワークショップ ～水辺体験活動を普及する上での課題及びアイデアの共有～
11:30	ＲＡＣとしての取り組むべき事業づくり 地域から要望など
12:10	終了

【近畿】

◇　日　　時：平成 22 年 2 月 7 日（土）9:00～12:00
◇　場　　所：大阪府　大阪市　中央青年センター
◇　参加者数：13 名
◇　グループワークからの課題と提案（抜粋）

- 全国大会のテーマをはっきりさせる
- まだまだ、個々の団体同士の連携が必要である。
- 川の体験活動を普及して行くのには「楽しい」こと「誘い込み」が重要である。
- 指導者と子どもの水辺安全講座の両方ができるプログラムを考案する（親子で参加など）。
- 地域で活動を行っている団体が連携をしてリスクマネジメント計画を作る。
- 地域の人たちが中心となっての地域ミーティングを定期的に行い、情報やスキルの共有を行う。

【九州】

◇　日　　時：平成 22 年 2 月 14 日（土）9:00～12:00
◇　場　　所：熊本県　熊本市　総合女性センター
◇　参加者数：9 名
◇　グループワークからの課題と提案（抜粋）

- 指導者の資格を活かすには他団体との交流が必要である。
- 冒険やエクストリームな体験も必要である。
- プログラムの中に自由な時間を作る。
- スタッフの新旧交代をはかる。
- スタッフ同士でスキルや目的の共有をする
- 参加者やスタッフに楽しい体験やご褒美でモチベーションをあげる。

様式Ｒ－５

活動記録

（NO.　　）

1.講座名	子どもの水辺安全講座 in 那珂川
2.開催日時	平成 21 年 8 月 4 日 5 日
3.開催場所	栃木県那須烏山市宮原「宮原キャンプ場」及び観光ヤナひのきや前の那珂川中流
4.河川名	那珂川
5.参加人数	子ども　　21 名　、　　大人　　0 名、　　指導者　　7 名

6.講座内容

◇水辺で遊ぼう

① 川虫採集、スーコン釣り

② 雨上がりで若干増水していたせいか、なかなか魚が釣れず悔しがっていた。

◇水辺の不思議

① 全国の川にまつわる話。伝統漁「ヤナ」の観察会

② ヤナではいつでも魚が取れると思っていた子どもたちは、鮎が取れる時期や生態の説明を受けて感心していた。

◇自分を守る

① セルフレスキュー

② 流され方、泳ぎ方を実践してくうちに、ほとんどの子どもたちは対岸（川幅約１００m）まで往復で泳ぐことができるようになってしまった。

◇水辺から学ぼう

① カヤック基礎技術講習

② 子どもたちには敢えて乗り方や漕ぎ方の説明をせずにカヤックに乗せた。最初はカヤックに手こずる子どもたちだったが、いろいろと考え、チャレンジするうちにカヤックを簡単に操作できるようになった。

◇ふりかえり

① 修了書授与、冊子の説明

② 初めての体験ばかりでかなり疲れている様子であったが、水辺の楽しみに触れることができとても充実した二日間だったと多くの子どもたちから感想を聞くことができた。

様式Ｒ－５

活動記録

（NO.　　）

1.講座名	ＲＡＣサマーキャンプｉｎ馬瀬川
2.開催日時	２００９年8月6日（木）～１１日（火）
3.開催場所	岐阜県下呂市馬瀬地区
4.河川名	馬瀬川
5.参加人数	子ども　１０名　、　　大人　　２名、　　指導者　　７名

6.講座内容

【第１日目】馬瀬川と地域の人たちに触れる

■水辺の講座①：河川状況・天候も芳しくなく「川になれる」ということで、装備・川流れなどの短時間の活動にとどめた。

【第２日目】伝統漁の体験と川になれる

■　伝統漁体験①：ウナギ漁に使用する雑魚捕獲のワナを講師の方と一緒に作った。地域の独特の伝統漁にみんなキョトンとしていたが、解説しながらの丁寧な関わりに、仕組みと魚の関係を理解できて納得！

■水辺の講座②：先日の「川流れ」の復習とともに、対岸への渡り方などを学んだ。また、ロープを利用して渡ったりと「川への理解」が少し深まったようだ。なにより、最後の飛び込みは参加者の満足をアップしたようだ。

【第三日目】冒険に向けての復習と地域とのコミュニケーション（環境にやさしい農園体験）

■水辺の講座③：翌日の渓流トレッキングに向けての必要な技術等の復習を中心に進めた。水温チェック、川流れ、スローロープのつかみ方、川の流れを読む、数人での川の横断・・・バディでの健康チェックも取り入れた。参加者は真剣に取り組んでいた。

■伝統漁体験③：早朝仕掛けを確認にいくもウナギの捕獲は失敗に終わる。

【第四日目】渓流トレッキングと地域とのコミュニケーション

■水辺の講座④：キャンプ場（宿泊地）下流の流れを利用して「渓流トレッキング」に挑戦。少しずつ流れのあるフィールドへと移動することに不安を表す参加者もいたが、今までの体験の成果を充分に発揮する事で全員が無事に終了。時折、発生する救助にもパニックを起こすことなく対応する事ができた。動画も撮ってあるので参考にしていただけたら幸いです。

【第五日目】地域とのコミュニケーション

■地域の人とのふれあい③：ハーブとホオ葉寿司を地域の方々から学んで昼食としていただいた。地域コーディネーターの小池氏とともに、不思議なハーブの臭いや変化に子どもたちもビックリ。自分達で創ったホオ葉寿司ならではの美味しさも堪能していた。なにより、地域の方々の優しさに触れた時間となった。地元の方々が「折角来てくれたのにこんな天気で勘弁してね」といわれるのに、その温かさを感じ取ることができた。

■水辺の講座⑥：シャワークライミングの代行として「水生昆虫調査」をフィッシングセンター周囲で実施。当初はカワゲラ、トビケラ、ヘビトンボと奇妙な生き物にビックリはしていたが、講師の名和氏の「清流の指標生物」という解説にみんな納得。次々と網を入れては眺め、場所を変えては網を入れと集中した時間となった。

【第六日目】渓流釣りにチャレンジ

■水辺の講座⑦：上級生は地元講師の老田氏とともに上流の渓流つりへ、全くの自然の中での体験には「生息しそうな場所」が理解できたようだ。下級生はフィッシングセンター周辺にてアマゴ・雑魚釣りにチャレンジ。渓流つりはイワナを１匹釣ることができた。

今回参加した子ども達は、いまだに清流「馬瀬川」での純粋な川遊びを体験できていません。来年度、再度この地での長期キャンプにチャレンジしたいと考えます。

1.講座名	ＲＡＣサマーキャンプ in 板取
2.開催日時	平成 21 年 8 月 23 日～平成 21 年 8 月 29 日
3.開催場所	門原文化センター（門原集会場　岐阜県関市板取門原）
4.河川名	板取川
5.参加人数	子ども 6 名　、　　大人　　名、　　指導者 13 名

6.講座内容（各カリキュラム毎に　①カリキュラム名称・②概要を記載し、③写真を添付。1 日の活動を総括して、④考察を最後に記載。）

①＜自然の中で夜明けを体感する＞◇ビバーク撤収◇蕪山下山

＜川の魅力を体験する―その２＞◇近くの川で川遊び・潜水、手網で魚とり

＜地域の自然を知る＞◇ナイトウォーク・村はずれの林道をライトなしで歩く

講師：高屋　良平

①＜地域の人々と結びつく―その１＞　◇感謝の手紙◇お別れパーティー招待状作り講師：　高屋　良平

＜チャレンジ川遊び―その２＞◇キャンプ場～川浦渓谷の遡行・PFD をつけて沢の遡行

・飛び込み、川流れ、泳ぎのぼり、レスキューロープを使った遡行の補助　講師：北川　健司

＜地域の文化を知る＞◇ドラム缶風呂体験・薪集め・焚き付け・風呂焚き「株杉」探勝

講師：高屋　良平

①＜チャレンジ川遊び―その３＞◇ロープレスキュー・スローバッグの正しい使い方

◇PFD をつけて大岩から飛び込み

講師：高屋　良平

＜地域の人々と結びつく―その２＞

講師：高屋　良平

◇グループで出し物決めの準備・招待状作り

・グループで出し物決め

・グループで出し物の練習

◇お別れパーティー・地元の人を招いてお別れパーティー

1.講座名	ＲＡＣサマーキャンプ in 馬渕川＆小川原湖
2.開催日時	２００９年９月１９日（土）～9 月２３日（水）
3.開催場所	青森県　三沢市
4.河川名	馬渕川
5.参加人数	子ども　１６名　、　　大人　　名、　　指導者　　名

１日目：森のキャンプ生活・・・森の隠れ家ティーピーづくり、マイ箸づくり、ツリーハウス泊り
　　水辺のリスクマネジメント講座・・・水辺の危険箇所をＤＶＤで知る

森の中にティーピーを作りました　　青森ヒバでマイ箸を作っています　ツリーハウスにある樹上の風呂

２日目：川の環境を体感する・・・名久井岳登山をして、川と山のつながりを学ぶ
　　川と自分たちの暮らし・・・川魚をさばき、夕食のおかずにする
３日目：自分を守る・・・川での危険状況を把握し、対手法を身に付ける
　　自ら行動する・・・・Ｅボートで八戸市内を河口まで下る

パドリングはしっかりと　　みんなで力を合わせＧＯ！　　目の前は太平洋

４日目：自ら行動する・・・小川原湖（高瀬川）の源流を沢登りして確かめる

沢へ降りるのが大変　　本川遡行　　懸垂下降です

５日目：ふりかえり
今までの活動を通していろいろなことを体験したことから自分たちの地域のまちつくりを行います。
ワークショップを行い。発表をしました。
お昼はみんなで流しソーメンを食べました。

1.講座名	ＲＡＣサマーキャンプｉｎ紫川II
2.開催日時	2009 年 7 月２９日～8 月２日
3.開催場所	福岡県北九州市小倉南区～小倉北区（紫川流域）～藍島
4.河川名	二級河川　紫川
5.参加人数	子ども　　１０　名　、　　指導者　　１２　名

6.講座内容**「開催内容の変更」**

２００９年７月２４日～２５日に九州北部豪雨があり紫川が氾濫したため、前半の３日間を取り止めて中流部からのスタートとなった。（登山や滝登り、ダム縦断カヌーを中止する）

７月２９日

下流の水環境館で開会式を行なった後、路線バスにて紫川の中流（合馬）に移動し、川での基礎トレーニングを行なう。（川での泳ぎ方、流され方、歩き方、危険回避の方法等）

７月３０日

水量か多く、中流からのカヌーで下るのを止めて、安全なところまで路線バスで移動し、そこから川流れ（約５ｋｍ）で下流に向かうことにする。
長い距離を流れたので、かなり体力を消耗した。
１日目に川での泳ぎ方や、流され方の訓練をしていたので、大きな問題は無かったが、最初の大きな瀬ではドキドキハラハラさせられた。
川流れサポートの人々や昼食サポートのお陰で無事に一日を終えることができた。

７月３１日

いよいよ、ここからは河口までカヌーで下る。

昨日の夕方、河口付近でカヌーの練習をしていたので、天候も良かったので無事に桟橋に到着する。
風の具合が良く、少し島の周りをツーリングしながら、無人の浜に到着だ！これから、苦しい水汲や、野営地の設営だ、でも、皆で頑張るぞ！今日から島の新しい友達も加わるから楽しみだ。（藍島の子ども３人が臨時参加する）
今年も、長い旅をへてここの無人の浜にＲＡＣの旗を立てることができた。皆のお陰だ！
ありがとう。

夏の暑い盛りで、浜で生活するのは大変である。
水の補給、食材の確保、食材の保冷、生活するだけでも不自由である。限られた環境のなかで仲間と協力し工夫していく子ども達は凄い！人間は、たまには厳しい環境にさらすことが必要である。
「ふりかえり」での子どもたちの言葉　・我慢する　・人のことを考えて行動する　・何事も慌てない

■　全国一斉１万人・川の流れ体験キャンペーン　■

ライフジャケットを着けて川の流れを体験することを通じて、水辺の安全利用を普及することを主な目的として、全国 22 箇所で開催しました。川での楽しい体験活動とともに、川をきれいにする活動も行い、延べ 1 万人を超える方々が当キャンペーンに参加しました。

〔目　的〕

川は環境教育の宝庫であるが、子どもたちにとって先ず必要なのは川の魅力を感じることであり、そこから川の環境を考え自発的に川をきれいにする行動とつなげるステップが必要です。

当取り組みでは安全についてレクチャーした後、水生生物観察や川流れ体験をしました。その後、ゴミ拾い、拾ったゴミの分類をして簡単なふりかえりを行います。ふりかえりでは「どのようなゴミがあるのか？どのようにすればゴミがなくなりきれいな川になるのか？」をみんなで考えを共有する機会としました。川で「遊ぶ」だけにするのではなく体験学習法に基づき小学校教育で求められる生きる力を養うことも狙いとしました。

〔内　容〕

日本全国から川の流れキャンペーンへの賛同団体を募り、7 月～8 月の間に一斉に川の流れ体験を実行しました。

開 催 期 間）7 月～8 月の間の 10 時～15 時（「川に学ぶ旬間」を制定した。）
プログラム）オリエンテーション／子ども水辺安全講座／川流れ／
　　クリーン作戦／ふりかえり等
対　　象）小学生（小学校 3 年生以下は親子）
実 施 地 域）下記参照

〔結　果〕

全国 10883 人の人たちが川の流れ体験を行い、川の素晴らしさや怖さなどを実体験できる機会となりました。例えば、汚いと思っていた東京の多摩川や鶴見川などでも川の流れ体験が行われましたが、多摩川で活動を行った結果、「思っていたより、川がきれいだ」とか、「また来年も川の流れ体験をやってみたい。」という意見が寄せられました。また、活動前の川のゴミ拾いを通してゴミの種類やどんなところにゴミが捨てられているのかなどの気づきを得る機会となりました。

今後の展望としては、この活動を一過性のイベントにせず、毎年キャンペーンを続けることによって川の安全利用の方法などが全国的に周知させることになり水難事故防止に繋がると思われます。事故のない安全な川の活動が広まるようになれば川に興味を持つ人が増え、自ら大切にする生活スタイルも川遊びとともに広がっていくことも期待されます。

ＮＨＫの全国ネットでも当取り組みが紹介されたこともあり、川への関心がこれまで以上に高まったと思われます。

■　全国一斉１万人・川の流れキャンペーン開催事業一覧

番号	都道府県	河川名	実施場所	日時	協力団体
1	山形県	置賜野川	長井市	7 月 25 日（土）～26 日（日）	出羽乃国漂流隊
2	東京都	多摩川	世田谷区鎌田	7 月 5 日（日）	
3	広島県	芦田川	府中町	7 月 25 日（土）	福山平成大学
4	宮崎県	大瀬川	延岡市	7 月 26 日（日）	NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワーク
5	長野県	天竜川	泰阜村	7 月 20 日（月）～8 月 30 日（日）	NPO 法人ｸﾞﾘｰﾝｳｯﾄﾞ自然体験教育ｾﾝﾀｰ
6	神奈川県	鶴見川	横浜市鶴見区	8 月 29 日（土）	NPO 法人鶴見川流域ネットワーキング
7	熊本県	白川	阿蘇郡南阿蘇村	7 月 5 日（土）	ＴＥＲＡ子野アドベンチャー
8	宮崎県	沖水川	北諸見郡	7 月 20 日（月）	NPO 法人大淀川流域ネットワーク
9	栃木県	余笹川	那須町	7 月 4 日（土）	余笹川流域連携ネットワーク
10	青森県	岩木川	つがる市	8 月 8 日（土）～9 日（日）	ＮＰＯ法人岩木山自然学校
11	広島県	馬洗川	三次市	8 月 1 日（土）	名吉舎自治振興会
12	福井県	日野川	越前市	7 月 19 日（日）	日野川流域交流会

13	宮崎県	北川	延岡市	7 月 24 日（金）	ゆりかご保育園・児童館
14	宮崎県	川内川	えびの市	7 月 24 日（金）	さわやかサマースクール実行委員会
15	岩手県	北上川	一関市	8 月 8 日（土）～12 日（水）	NPO 法人くりこま高原 地球の暮らしと自然教育研究所
16	熊本県	矢形川	上益城郡	8 月 4 日（火）～6 日（木）	九州中央山地自然学校
17	奈良県	吉野川	五条市	8 月 22 日（土）	奈良県立御所実業高等学校

※上記のほか、長良川等 5 箇所にて開催

第2章 －8　養成講座 指導者マニュアル

Eボート指導者講習会（試行版）

講座の目的

（1） Eボート（インフレータブルタイプ）の活用方法やその開発理念を知る。

（2） Eボート（インフレータブルタイプ）の安全な取り扱いについて知る。

プログラムの目標

（1） Eボートの開発理念を知り、各地域における活用方法を考え、気づく。

（2） Eボートの安全な取り扱いについて認識する。

（3） 流水におけるEボートの操船技術を学び、安全な操船方法を理解する。

（4） Eボート・ツアーに必要な様々な知識を深める。

受講条件

（1） 20歳以上

（2） Eボートを使った水辺体験活動に関心のある人

（3） 参加者16名程度

講座全体の留意点

（1） 以下の留意点にそって、簡潔で分かりやすい講座を心がける。

（2） 講座は次の点に重きを置く。

○ Eボートの理念を知り、受講者が今後どのように活用したいか共有できるように工夫する。

○ Eボート活動における危険箇所を知り安全で確実な操船技術を学ぶことに主眼を置く。

（3） Eボートに特化した「ひやりはっと事例」など具体的な事例を示して、安全で克つ円滑な活動への理解を高める。

（4） RACの活動等を紹介し、今後継続して学ぶ機会があることを伝える。また全国各地に設置されている河川管理者等のEボート分布マップを渡し、河川管理者と連携して各地域におけるEボートの有効活用を促す。

講座実施時間

５時間（1 日）

実施項目

科　目		形式	合　計
① オリエンテーション	○　講座の趣旨・スケジュール説明 ○　キャンプネーム・アイスブレイク ○　参加のねらい及び自己紹介	講義	１５
②Ｅボートのコンセプトと活用例について	○　Ｅボートの開発理念と経緯を知る ○　様々な活用方法について	講義	１５
③ Ｅボートの取り扱いについて	○　インフレータブルボートの特徴を知る ○　基本的な操船方法を知る ○　質疑応答	実習	９０
④ Ｅボート・ツアーの実際	○　ツアーに必要な機材(指導者、参加者、全体)を知る ○　セーフティートークの実際 ○　指導者としての声掛け実習 ○　河川の危険箇所と回避方法を知る ○　他の利用者への配慮を学ぶ ○　河川の自然や歴史等の活用を知る	実習	１５０
⑤ ふりかえり	○　本日学んだことや感想 ○　Ｅボート・マップの紹介 ○　ＲＡＣ関連資料の説明 ○　全体のふりかえり	講義	３０
合　計			３００

（単位：分）

サンプルスケジュール

講座時間数　５時間

９：３０　受付
１０：００　オリエンテーション
１０：１５　Ｅボートのコンセプトと活用例について
１０：３０　Ｅボートの取り扱い方法について
１２：００　休憩（昼食）
１３：００　Ｅボート・ツアーの実際
１５：３０　ふりかえり
１６：００　終了

① オリエンテーション	講 義	15分

目 標

（1）受講者それぞれのねらいを理解する。

（2）受講者の緊張を和らげる。

指導上の留意点

（1）講座の趣旨、スケジュールを説明する。

（2）一方的な説明に終らないように、受講者の経験を引き出すなど、参加型で進める。

（3）Eボート（インフレータブルタイプ）の説明に必要な映像資料を準備する。

進め方の例

1. 導入

① 講座の趣旨を確認する。
② 講師の自己紹介とともにキャンプネームについても紹介する。
③ 受講者にキャンプネームをつけてもらう。
④ アイスブレイキングを行い、緊張を和らげる

2. 展開

① 全受講者より「キャンプネーム」「参加のねらい」「受講後の活動予定場所・内容」を発表。
② 「参加のねらい」等についてホワイトボードに書き留める。
③ 今回の講習で可能な限り各参加者の「ねらい」を達成できるよう工夫する。

3. まとめ

① 今回の講習ではEボートの理念や活用例を知り、Eボートを安全に取り扱うことが目標であることを確認する。
② Eボート等 10 人のインフレータブルボートの特性を知り、その特性に応じて取り扱うことの重要性を伝える。
③ 講習会の安全に配慮すること、自分自身の体調を管理することを確認する。

② Ｅボートのコンセプトと活用例	講義	15分

目 標

（１）Ｅボートの開発経緯とコンセプトを知る

（２）Ｅボートの様々な活用例とまちづくりとの関係性を知る

指導上の留意点

（１）Ｅボートの基本的なコンセプト（Exchange-交流）を理解し、様々なコンセプトで活用されていることを伝える。

（２）Ｅボートのコンセプトに近い 10 人乗りのインフレータブルボートを紹介する。

（３）実習へ入る前に、操船技術の基本などは動画等を活用して感覚でイメージできるような教材を見せることが望ましい。

進め方の例

1. 導入

① Ｅボートの「Ｅ」には、どんなコンセプトがあるか聞く。

Exchange（川やダム湖などの水辺で人々が交流）、Environment（水辺の地域や環境を見直し考え直すきっかけ）、Eco-Life（エコライフを促進）、Everybody（子どもからお年寄りまで障害を持った人も）、Easy（簡単に）、Enjoy（楽しく）、Experience（水辺のすばらしさを体験）、Education（青少年教育）、Emergency（水害や水辺の事故等の緊急時の活用） etc

② Ｅボートの開発の経緯や、ファルトタイプなど様々なＥボートを紹介する。

ダム湖の活用から考案／FRP タイプ、ファルトタイプ、インフレータブルタイプ等

2. 展開

① Ｅボートの活用事例を紹介する。⇒「参考資料」

② Ｅボートのコンセプトに近似する大型のインフレータブルボートを紹介する。

Ex)「インセプト／ECO51」 「ハイファイブ/A-TEAM」

③ Ｅボート及び近似するボート（以下Ｅボート Ｉ類）の特徴を伝える。

3. まとめ

① それぞれの地域や活動に応じて様々な活用例を編み出し共有していくことを伝える。

③ E ボートの取り扱いについて	実習	90 分

目 標

（1）インフレータブルボートの特性と取り扱い上の注意事項を知る。

（2）基本的な操船方法を知る。

（3）穴あきなど現場での応急修理の方法を知る。

指導上の留意点

（1）組み立て場所や、天候・季節・利用環境（気温、水温）、風等を考慮する大切さを伝える。

（2）流れのあるポイントでフェリーグライド及び離着岸を体験する。

（3）乗船前に配慮すべき事項を伝える。

進め方の例

1. 導入
   - ① 組み立て場所を選定し、フラットバルブのスプリングロックの注意事項を説明する。
   - ② 空気圧については手で押したときに「へこまないが硬すぎない」感覚を伝える。
   - ③ 「空気の船」としての特徴と注意事項を繰り返し伝える。
2. 展開
   - ① セーフティートークを行う（パドルの危険性や持ち方、スローロープの握り方等含めて）。
   - ② 体格等を考慮して乗船位置を指定する。
   - ③ 実習会場に応じて、フェリーグライドなどを取り入れてボート慣れをする。
   - ④ 受講者は出来る限り舵取り、離着岸の経験ができるようにする。
   - ⑤ 転覆時の対処方法を伝える。
   - ⑥ 穴あきの応急修理方法を紹介する。
3. まとめ
   - ① Eボートの操船体験のふりかえりを行う。
   - ② 操船が上達するには経験を積むことの大切さを伝える。

④ Eボート･ツアーの実際	実技	150 分

目 標

（1）Ｅボートによる川下りの実際を経験する。

（2）川の危険箇所を把握しそれを回避する方法を知る。

（3）流水における操船技術を知る。

指導上の留意点

（1）個人装備とチーム装備について確認する。

（2）セーフティートーク及びボート取り扱いの注意点の説明を経験させる。

（3）川下りするコース及びタイムスケジュールを共有する。

（4）コース内の自然環境や動植物、史跡などがガイディングに活用できることを紹介する。

（5）参加者により川下りする区間を適切に選定する。

進め方の例

1. 導入

① ボート組み立て後、装備を確認する。

② 2 人 1 組になり、それぞれで「ボート取り扱い上の注意」「セーフティートーク」を行う。

2. 展開

① ツアーを行いながら、状況や参加者に応じて適宜席替えしながら川を下る。

② ガイド役がコースを決定し参加者へ指示を出すことを経験する。

3. まとめ

① 参加者の意見を共有し集約する。

② 操船だけでなく適切な収納が安全の向上に繋がることを伝える。

(個人装備)

･ライフジャケット、ヘルメット or 帽子 etc

(チーム装備)

・スローロープ、ホイッスル、フリップライン、FA キット、ナイフ、防水バック、通信手段、予備パドル、飲み物、ポンプ、ダクトテープ、参加者名簿と緊急連絡先 etc

(その他準備)

・ 陸上サポート・伴走、留守本部としての緊急時連絡先、中止基準、緊急連絡網、保険 etc

⑤ まとめ	講義	30 分

目 標

（１） Ｅボートの様々な活用の可能性について共有する。

（２） ＥボートⅠ類に関する「ひやりはっと」を共有し、準備や技術向上の大切さを伝える。

指導上の留意点

（１）全体をふりかえりながら、１人１人が感じたＥボートの活用可能性について共有する。

（２）インフレータブル及び 10 人で操船する際の特性を再認識する。

（３）ＲＡＣの指導者養成講座等へのＥボート指導者講習会の導入方法について伝える。

進め方の例

1. **導入**
   - **① 活動全体の感想を聞く。**
   - **② Ｅボート指導者としての自分自身の課題に自ら気付くように促す。**
2. **展開**
   - **① 経験を積むことの大切さを再度伝え、各地のＥボート活動で研修を兼ねて経験することを促す。**
   - **② 参加者へそれぞれの課題を伝え、目的意識をもって技術等の向上できるように配慮する。**
3. **まとめ**
   - **① 全国各地に設置されている河川管理者等のＥボート分布マップを渡し、河川管理者と連携して各地域におけるＥボートの有効活用を促す。**
   - **② Ｅボート利用に適した自然環境を伝える。**
   - **③ 指導者として様々な知識や技術・体力の向上や健康管理の大切さを伝える。**
   - **④ ＲＡＣの指導者養成講座等を紹介し、リーダー講座等の受講を勧める。**

Eボート指導者講習会に関する規定(案)

（総則）

第１条　当規定はＮＰＯ法人川に学ぶ体験活動協議会（以下当法人）の「川の指導者養成制度」における「Ｅボート指導者講習会」の開催の方法について定める。

（定義）

第２条　「Ｅボート指導者講習会」（以下Ｅボート講習会）とは、「ＲＡＣ指導者養成ハンドブック」に定める「Ｅボート指導者講習会」のカリキュラム（5 時間程度）に相当するプログラムを実施する講座とする。

（講座認定に関する申請方法）

第３条　Ｅボート講習会を開催する指導者養成団体は、所定の申請様式にて、審査認定スケジュールに基づき、当法人に講座認定の申請を行う。

（講座開催要件）

第４条　Ｅボート講習会の開催には、ＲＡＣの認定するＥボート専任講師が主任講師を行うこととする。

（修了カード等発行に関する手続き）

第５条　Ｅボート講習会の修了者に専任講師の責任において仮修了カードを発行できる。
２．仮修了カードを発行した受講者名簿及び受講票等は講座開催後 1 ヶ月以内に所定の講座修了報告書類と併せてＲＡＣへ提出しなければならない。
３．仮修了カードおよび配布資料はＲＡＣのＨＰよりダウンロードし各団体の責任において配布する。
４．正式な修了証の発行は、主管団体から提出された講座修了報告書類の審査を経て、RAC より一括して主管団体へ発送する。なお修了証発行及び登録手数料は一人につき 3,000 円／枚とし、RAC へ納入する。

（規定の改正）

第６条　本規定の改正は、理事会の審議を経て行うことができる。

付則

１本規定は平成 22 年●~~1~~月●~~22~~日より施行される

Eボート指導者講習 専任講師養成会に関する規定(案)

（総則）

第１条　当規定はＮＰＯ法人川に学ぶ体験活動協議会（以下当法人）の「川の指導者養成制度」における「Eボート指導者講習 専任講師養成会」の開催の方法について定める。

（定義）

第２条　「Eボート指導者講習　専任講師養成会」（以下Eボート専任講師養成会）とは、「ＲＡＣ指導者養成ハンドブック」に定める「ＲＡＣ Eボート指導者講習　専任講師養成会」のカリキュラム（5 時間程度）に相当するプログラムを実施する講座とする。

（講座認定に関する申請方法）

第３条　Eボート専任講師養成会を開催する指導者養成団体は、所定の申請様式にて、審査認定スケジュールに基づき、当法人に講座認定の申請を行う。

（講座開催要件）

第４条　Eボート専任講師養成会の開催には、ＲＡＣの認定するEボート講習会マスター講師が講師を行うこととする。

２．　Eボート専任講師養成会はＲＡＣが主催団体となり、当該指導者養成団体は主管団体とする。

３．　当該主管団体は講座開催の際には保険（傷害保険、賠償責任保険）に入らなければならない。

４．講座開催に必要な経費は別に定める条件に基づき、原則として受講料の範囲内でＲＡＣより支出する。

５．受講料は主管団体と協議の上、別途定める。

（認定証等発行に関する手続き）

第５条　Eボート専任講師の登録料は 10,000 円としＲＡＣへ納入する。

２．受講者名簿及び受講票等は講座開催後 1 ヶ月以内に所定の講座修了報告書類と併せてＲＡＣへ提出しなければならない。

３．講座に必要な配布資料はＲＡＣのＨＰよりダウンロードし各主管団体の責任において配布する。

（規定の改正）

第６条　本規定の改正は、理事会の審議を経て行うことができる。

付則

１　本規定は平成 22 年●月●日より施行される

Eボート専任講師認定および登録に関する規定(案)

第１章　総則

（総則）

第１条　この規定は、特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会（以下ＲＡＣという）定款第５条（３）の定めるところにより、Ｅボート指導者講習会の専任講師の認定および登録に関する事項を定める。

（定義）

第２条　この規定でいう用語について各々、次のとおり定義する。

(１)指導者養成団体はＲＡＣ指導者養成事業の実施団体として認定された団体。
(２)指導者登録はＲＡＣが作成するＲＡＣ指導者名簿に一定の手続きを経て登録されること。
(３)指導者登録更新は一定の手続きを経て、登録有効期間を更新すること。

（Ｅボート指導者講習会講師の名称について）

第３条　ＲＡＣの認定する「Ｅボート指導者講習会」において講師をする能力と心構えを有するものをＥボート専任講師（以下　Ｅボート専任講師）と称する。

第２章　Ｅボート専任講師の認定要件

（Ｅボート専任講師の認定要件）

第４条　次の各項に該当するものをＥボート専任講師として認定することができる。

(１)Ｅボート専任講師養成会に参加し試験に合格し、かつ審査認定委員会において承認されたもの。
(２)Ｅボート専任講師養成会の受講要件及び認定要件は別に定める。

（Ｅボート専任講師の認定証発行）

第５条　Ｅボート専任講師の認定証の発行手続きは下記の通りとする。

（１）Ｅボート専任講師養成会に参加し試験に合格し、かつ審査認定委員会において承認されたもの。

（２）Ｅボート専任講師の認定証発行手数料は登録料に含まれるものとする。但し再発行が必要な場合、一人に付き1,000円／枚とする。

（３）一旦納入された認定証発行手数料は理由の如何を問わず返却しない。

第３章　Ｅボート専任講師の登録および更新

（Ｅボート専任講師の登録および更新手続き）

第６条　Ｅボート専任講師の登録有効期間は３ヵ年度とする。
２．登録更新は原則として ３ ヵ年度に１回以上ＲＡＣの安全に関する講座に関わること、または、３ヵ年度のうち１回以上ＲＡＣフォーラムの運営に関わることを条件とする。
３．ＲＡＣ指導者登録期限が過ぎた場合には、Ｅボート専任講師の登録も同時に抹消する。

（登録の有効期間）

第７条　登録有効期間は、登録年度より翌々年度の３月末日とする。

（登録の終了）

第８条　登録は次の場合、終了するものとする。
(１)所定の登録期間が終了し更新条件が満たされない場合。
(２)指導者養成団体のＲＡＣ指導者登録を終了した場合。
(３)本人が登録している指導者養成団体に本人より書面による申し出があった場合。
(４)登録している指導者養成団体より書面による申し出があった場合。
(５)この法人の名誉を著しく傷つけるか、またはＲＡＣの目的に反する行為をしたとき。

第９条　本規定の改正は、RAC 理事会の審議を経て行うことができる。

付則
１　　本規定は平成 22 年●月●日より施行される。

Eボート専任講師養成会受講要件および認定に関する細則（案）

第１条（総則）
この細則は、Ｅボート指導者講習会認定および登録に関する規定第４条に定めるＲＡＣＥボート専任講師養成会の受講要件に関する事項を定める。

第２条（Ｅボート専任講師養成会受講の必要条件）
ＲＡＣ　Ｅボート専任講師養成会受講にあたっては以下の受講要件をすべて満たしていることとする。
１）満 20 歳以上であること。
２）ＲＡＣインストラクター1 種以上の資格を有していること、または、ＲＡＣリーダーとして水辺での体験活動の経験を 2 年以上かつ 20 日以上有し、且つＲＡＣ所定の活動記録を提出できること（ＲＡＣインストラクター1 種以上の登録者は不要）。または NPO 法人地域交流センターより上記と同程度の能力を有すると推薦され、所定の申請書類を提出できること。
３）受講に必要な費用を事前に納付していること。

第３条（Ｅボート専任講師認定の必要条件）
Ｅボート専任講師認定にあたっては以下の認定要件をすべて満たしていることとする。
１）講習に必要な操船技術を有する
①流水でエディーイン・アウトができる
②２級の瀬でフェリーグライドができる
③フリップリカバリーをチームでできる
２）日本セーフティカヌーイング協会認定のインストラクターと同等の能力を有することが望ましい。

第４条（細則の改正）
本細則の改正は、人材育成部会の審議を経て行うことができる。

付則
１　　本細則は平成 22 年●月●日より施行される。

OP ▶ 全国川遊び100選とは ▶ BACK

RACの指導者が推薦する川遊びに適した場所「全国川遊び100選」募集要項

主な目的

(1) HPで全国の川遊び達人が推薦する自慢の場所「全国川遊び 100選」を紹介することで「川遊び」への関心を高め、「川に学ぶ体験活動」を普及する

(2) 水辺の安全対策情報を発信することで水難事故防止へ向けた一助とする

対象とする場所

川遊び 100選にふさわしい自慢の場所

推薦要件

推薦者は、「RAC LEDER」以上の資格保持者であること。(RAC指導者養成と利用者の安全対策の観点より。)

応募方法

下記調査票に必要事項を入力の上、写真データを添付して下記まで送信。(データでの応募に限らせて頂きます。)
掲載については当法人の審査を経て当法人のスケジュールにより随時HPへ掲載。

「全国川遊び100選」調査票 WORD

水辺の評価基準 (夏季の標準的な水量時を参考にする)

水 質	飲んでしまっても問題ないがなければ★★★。 薬品やアオコ等の匂いが感じられなければ★追加。 水底まで見える透明度があれば★追加。
流 れ	ライフジャケットを着けた小学生が自由に移動できれば★★★。 水底がスポーツサンダルで滑ったり、泥に足をとられなければ★追加。 ライフジャケットを着けた小学生が水中で 1時間遊んでも支障のない水温なら★追加。
景 観	コンクリート護岸がなければ★★★。 建物、鉄塔などが見えなければ★追加。 山や河川林などの緑が多ければ★追加。
生き物	魚類、両生類、甲殻類などの水性生物の観察や捕獲が容易であれば★★★。 河川林や草原があり昆虫の観察や捕獲が容易であれば★追加。 絶滅危惧種などめずらしい生き物が観察できれば★追加。
施 設	徒歩圏内に個人でも予約無しに着替えシャワーができる施設があれば★★★。 徒歩圏内に団体が利用できる施設があれば★追加。 近郊に RAC指導者が常勤・非常勤している施設があれば★追加。